

短 報

ソラチコザクラの白花品 (中井秀樹・大橋広好)

Hideki NAKAI and Hiroyoshi OHASHI: A White Flowered Form of *Primula sorachiana* Miyabe & Tatewaki from Hokkaido

ソラチコザクラ (*Primula sorachiana* Miyabe & Tatewaki) は北海道固有種であり、空知支庁金山で発見された標本に基づいて記載された。しかし、今日この産地はダム建設によって失われてしまった。現在知られている主な分布域は空知南部から日高地方であり、自然の湿った岩壁ばかりではなく、人工的に削られた崖にもその生育を見ることがある。日高支庁浦河町の東部を流れる日高幌別川水系で開削された林道にも人工的な崖が所々にあり、大小のソラチコザクラの群落が見られた。大きな群落では花冠が濃紅紫色から淡紅紫色あるいは淡青紫色まで変異するのが観察できたが、その中に、非常に数少ないが、純白のものが混生していた。乾燥標本では花冠裂片はやや紫色を帯びたが、花冠筒部は白色

のままであった。白花品種として記録し、タイプは東北大学大学院理学研究科植物標本館におく。

Primula sorachina Miyabe & Tatewaki in Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. **13** (1): 2 (1933).

f. **candida** H. Nakai & H. Ohashi, f. nov.

Corolla candido, cetera ut in typo.

Nom. jap.: Yukihiro-sorachi-kozakura. ユキイロソラチコザクラ

Typus: Hokkaido. Hidaka subpraefect., Urakawa-cho, in scopulis humidis artificialibus. H. Nakai, 24 May 1996 (TUS).

(Biological Institute, Graduate School of Science, Tohoku University
東北大学大学院理学研究科生物学教室)

チョウセンキバナアツモリソウ, 日本新産植物 (井上 健)

Ken INOUE: *Cypripedium guttatum* Sw. (Orchidaceae), New to Japan

キバナノアツモリソウはチョウセンキバナノアツモリソウ *Cypripedium guttatum* Sw. の変種とされたり、これに近縁な独立種 *Cypripedium yatabeanum* Makino とされ、日本では長野県・山梨県の中部地方と北海道に生育し、国外では千島列島・カムチャッカ・アリューシャン列島・アラスカとベーリング海

の周辺に分布している。その花は和名の通り緑黄色で濃い茶褐色の斑紋がある。チョウセンキバナノアツモリソウ *C. guttatum* はヨーロッパから東シベリア・中国東北部・朝鮮半島までのユーラシア大陸の亜寒帯の広い地域と樺太・アラスカから報告されているが、日本からの報告はなかった。*C. guttatum* の花色は

Table 1. チョウセンキバナノアツモリソウとキバナノアツモリソウの相違点

	チョウセンキバナノアツモリソウ	キバナノアツモリソウ
花色	白地に紅紫色の斑紋	緑黄色に濃茶褐色の斑紋
唇弁	長さ 14–21(–25) mm 柄が短く、長さ 4–5 mm	長さ 19–28 mm 柄が長く、長さ 6–11 mm
花弁	先端にゆくにつれ次第に細くなり 先端部は膨らまない	先端にゆくにつれ急激に細くなり 先端部は膨らむ
葉の付き方	2 個の葉は 17–20 mm ほど離れて付く	2 個の葉は接近し、通常 3–7 mm ほど離れて付く